

- 10月1日、憲法裁判所による現行憲法失効の認定
- 10月1～2日、第7回ヤルタ欧州戦略会議

A. 主な動き

1. 内政

▼1日、憲法裁判所による現行憲法失効の認定

・憲法裁判所は、2004年の「憲法に変更を加える」法律採択は違憲であるとし、同判決をもって現行の憲法(2006年発効)は効力を失い、今後各国家機関等は2006年以前の憲法(1996年発効)に従う義務が発生すると判決。

・ヤヌコーヴィチ大統領は、大統領及び最高会議は判決がどのようなものであれそれに従う義務があると発言。

・ティモシェンコ前首相他野党勢力は、同判決を非難し、現行の憲法が効力を失うならば大統領選挙及び期限前最高会議選挙を即座に実施して大統領及び最高会議議員を選出し直す必要があると発言。

・ラヴリノヴィチ法相は、1996年発効の憲法は各議員の任期を4年と規定しているが、現在の最高会議議員の任期は5年のままであり、10月31日実施予定の地方議会選挙にて選出される議員の任期より4年となる旨発言。また、1996年発効の憲法は副首相の人数を3名と規定しているため、現在5名の副首相の構成を近日中に変更し、3名に削減する必要がある旨発言。

▼地方議会及び自治体首長選挙に向けた動き

・25日、ルツェンコ前内相(BYT所属「国民自衛」党首)は、「国民自衛」党は「パチキフシナ」党と同一の選挙名簿で選挙に臨む旨ティモシェンコ前首相と合意したと発言。

・28日、野党勢力は、地域党及びその支持者を中心に構成された中央及び地方選挙管理委員会では同選挙の公正な実施が保証されないとし、各委員会の委員を変更するよう主張変更されない場合は同選挙における民主性を認めないよう各国際機関・外交団等と呼びかけ。これを受け、29日、中央選挙管理委員会は、選挙管理委員を変更する理由は見当たらないと反論。

・28日、トゥルチノフ第一副首相は、尋問のために再度国家保安庁に出頭、同尋問は同第一副首相の地方選挙に向けた政治活動の妨害を目的としたものと非難。

▼その他

・30日、BYTは、与党勢力が「ウクライナの言語に関する」法律を撤回しない場合、野党議員を中心とした無期限のハンガー・ストライクを実施する計画を発表。

2. 経済

▼マクロ経済

・30日、国家統計委員会は、2010年第2四半期のGDPを

6%から5.9%に修正。

▼政策

・28日、ヤヌコーヴィチ大統領は、経済改革のうち特に規制改革が遅れている、国家の規制システムがビジネス及び投資を妨げていると発言。

・1日、ヤヌコーヴィチ大統領は、エネルギー、化学、エンジニアリングといった鍵となる経済分野での民営化を加速すると発言。

▼財政

・28日、チギプコ副首相は、2010年の国家財政赤字をGDP4.9%に抑えることができると確信、また、2011年には赤字を3.5%まで引き下げると発言。

・28日、アザーロフ首相は、本日時点でのVAT未還付額は40億グリブナであるが、10月1日には30億グリブナに減少する見込みであり、本年末までにこれを完済し、その後は自動還付システムに移行すると発言。

・29日、政府は、2011年一般会計予算において借入額が794億グリブナ(対前年比39.5億ドル減)を占める見込みと発表。

▼税法

・28日、チギプコ副首相は、3～4週間以内に税法典が採択される見込みと発言。また、税法典の採択後、速やかに2011年予算案と関税法が採択される見込みとも発言。

・28日、リトヴィン最高会議議長は、来週の審議(10月5～8日)で税法典の一読を行う予定と発言。

▼IMF支援

・30日、アリエールIMF駐ウクライナ代表は、スタンドバイ合意の実施状況を確認するため、IMFミッションが10月末にウクライナを訪問予定と発言。

▼農業

・28日、アザーロフ首相は、今週末にも今年の穀物収穫量見通しを立て、来週、穀物輸出規制導入可否の判断が下されると発言。

・1日、プリシャジニク農業政策相は、10月1日時点での穀物輸出量が370万トン(現在、港にある30万トンを含む)と発言。

▼対外経済関係

・30日、クリューエフ副首相は、ミンスクにて、投資と経済協力に関するベラルーシ・ウクライナ政府間会合第19回会合に参加。

▼ウクルテレコム民営化

・28日、アザーロフ首相は、ウクルテレコム民営化の手続きを開始、今年中に民営化を完了すると発言。同日、政府は、ウクルテレコムの92.79%の権益を今後予定される入札のため国家財産基金の管理に移管。

・30日、リアヴチェンコ国家財産基金会長は、ウクルテレコム民営化により、少なくとも100億グリブナ、希望としては120億グリブナを得たいと考えていると発言。

・1日、国家財産基金は、ウクルテレコム売却のための入札を開始。

▼ガス問題

・29日、メドヴェージェフ露ガスプロム副社長は、天然ガス供給量の変更につきウクライナ側と協議中と発言。

・30日、露ガスプロムは、「サウス・ストリーム」建設計画が予定通りに進行しており、稼働が2015年末となる予定と発表。

・1日、マカレンコ前関税庁長官のスーホフ弁護士は、国家保安庁はマカレンコ前長官に対する職務怠慢の刑事事件を証拠不十分により取り下げたが、同時に職権乱用の刑事事件を新たに提起したと発表。

・1日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ポーランドがウクライナのガス輸送システム近代化に参加するようコモロフスキ・ポーランド大統領に提案。

3. 外政

▼25日、コモロフスキ・ポーランド大統領の来訪

・アザーロフ首相は、コモロフスキ大統領と会談、二国間関係、欧州サッカー選手権大会「EURO2012」の準備状況等につき協議。両者は、二国間関係及び今回の会談に見られる友好と相互理解の雰囲気に満足の意を表明。

▼30日、アザーロフ首相のポーランド訪問

・アザーロフ首相は、トウスク・ポーランド首相と会談、欧州サッカー世界選手権大会「EURO2012」の準備状況、二国間関係、ウクライナの欧州統合等につき協議。アザーロフ首相は、二国間関係の戦略的性質に言及、トウスク首相は、ポーランドがウクライナの欧州統合路線を支持し、査証制度の緩和に協力する用意があると発言。

▼1～2日、第7回ヤルタ欧州戦略サミット開催

・ヤヌコーヴィチ大統領及びコモロフスキ・ポーランド大統領が開会宣言、同サミットには、クリントン元米大統領、ストロスカークIMF事務局長、クファシネフスキ元ポーランド大統領、フィーレEU拡大・欧州近隣政策委員、クドリン露財務相、ビルト・スウェーデン外相、ソラナ前EU外交・安全保障政策上級代表等が来訪。

・1日、ヤヌコーヴィチ大統領は、コモロフスキ・ポーランド大統領と会談、ウクライナ・ポーランド間の貿易・経済協力を深化させることが重要と発言。

・1日、ヤヌコーヴィチ大統領は、フィーレ欧州委員と会談、ウクライナ・EU連合協定の準備状況につき協議。ヤヌコーヴィチ大統領は、ウクライナ・EU連合協定の準備をさらに進めていく決意を表明、国内改革の重要性につき言及。

・1日、ヤヌコーヴィチ大統領は、EUが提案するFTAは導入にあたり大規模な費用と国家予算の減少を伴うことから、ウクライナにとっては受け入れ難く、EUがウクライナのEU加盟を議論する用意がない間は、我々自らが統合のテンポ及び形式を国益に基づき選択していくと発言。

▼その他

・28日、リョーヴァチキン大統領府長官は、当地外交団と会見、地方選挙の準備状況、国際選挙監視団の役割、公正かつ透明な選挙の実施等につき説明。

・30日、クリューエフ第一副首相は、シドルスキー・ベラルーシ外相及びセマシュコ・ベラルーシ第一副首相と会談、対ベラルーシ電力輸出やベラルーシ産石油加工製品の対ウクライナ輸入等の燃料エネルギー分野につき協議。

4. 防衛

▼NATO

・29日、ラスムセンNATO事務総長は、11月に行われるNATOリスボン・サミットにアフガニスタンにおけるISAF参加国としてウクライナを招聘する予定と発言するとともに、NATOの門戸は開放されているが安全保障政策に関するウクライナの決定を尊重するとコメント。

・29日、NATO-ウクライナ委員会が開催され、ドルゴフ・ウクライナNATO常駐代表とビゾニエロNATO事務次長が会談。ドルゴフ・ウクライナNATO常駐代表は、NATOが新戦略概念において欧州大西洋安全保障体系におけるウクライナの役割と地位を明確にすることに期待を表明するとともに、相互間のあらゆる問題に関しNATOと建設的な協力を継続していくことを強調。ビゾニエロNATO事務次長は、ウクライナの欧州安全保障等への貢献を高く評価するとともに、NATO即応部隊へのウクライナ軍の貢献を歓迎。

▼燃料違法取引疑惑

・28日、グリツェンコ最高会議国家安全保障国防委員長は、コソボ国際安全保障部隊(KFOR)参加中のウクライナ軍人が2006年から2009年にかけてコソボにおいて大規模な燃料違法取引に関与していたとの疑惑に関し、誰がこの計画を考え出したかを正直に発表することが非常に重要であり、その時はじめてウクライナは信頼を取り戻すだろうと発言。

▼海賊被害

・25日、ウクライナ人船員12名が搭乗するパナマ船籍のギリシャ船「MV Lugela」がインド洋において海賊により拿捕。海賊による攻撃を受けた際に船員が十分な飲料水と食料を持って機関室に閉じこもったため、海賊は船の針路を変更することが出来ず27日に「MV Lugela」から立ち去った。

・1日、外務省は、12日にカメルーン沖において海賊に拿捕された貨物船「Salma」が解放されたと発表。同船舶には、ウクライナ人4名を含む10名の船員が乗船。

▼その他

・28日、エジェリ国防相は、曲技飛行展示チーム「ウクライナのハヤブサ」を復活させると発表。同チームは、6機のMig-29戦闘機のチームとして1997年に設立され、2002年

に予算不足により飛行が停止されていた。

・29日、エジェリ国防相は、ウクライナで唯一の潜水艦「ザポ

リージャ」は修理され、運用状態になるであろうと発言。

(了)